

経営比較分析表

北海道 美幌町

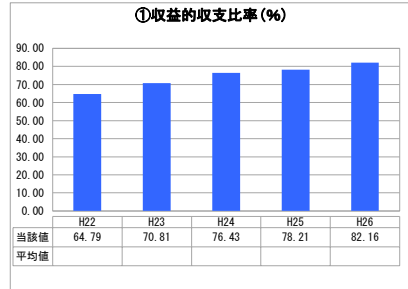
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	87.34	69.32
1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)			
4,492			

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,851	438.41	47.56
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
18,086	6.08	2,974.67

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



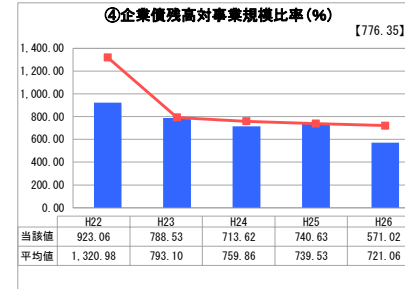
「単年度の収支」



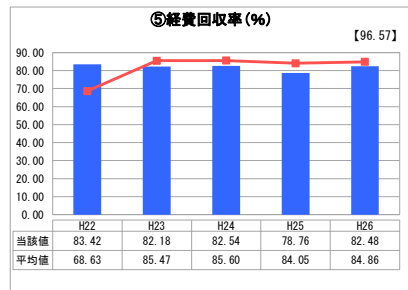
「累積欠損」



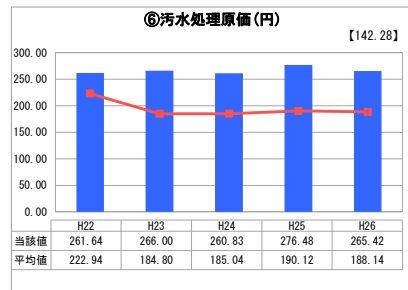
「支払能力」



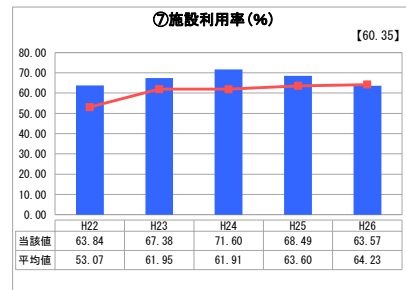
「債務残高」



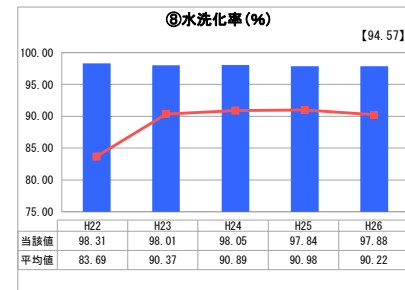
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

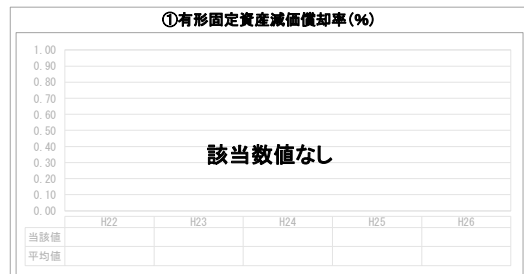


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

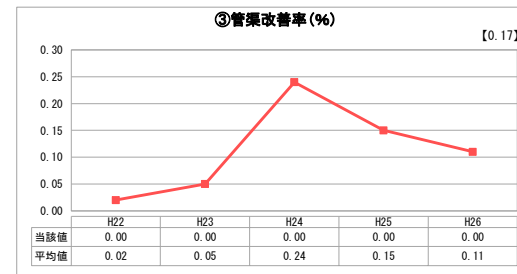
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を割り込んでおり、この原因の一つとして、「汚水処理原価」が高いことが挙げられ、年間収水量と比べ汚水処理費が高いことが主な原因となっております。又、施設利用率が類似団体と比べ低下の傾向にありますが、これは下水道事業の当初計画では人口増を見込み、処理場へ流入する水量も増加するものとして計画してありますが、実績では人口減少の傾向にあり、計画と実績に乖離が生じた結果となっているところであります。他方、企業債残高対事業規模比率は減少傾向にあり、収益的収支比率は100%未満ではありますが、年々増加傾向にあることから、投資規模及び必要な更新工事を適切に実施してきたことによるものと思われる。又、水洗化率については、普及啓発活動の推進により、類似団体を大きく上回っております。

2. 老朽化の状況について

美幌町の公共下水道事業は、管渠は昭和48年度から、処理場は昭和51年度からと、道内では比較的早くから事業に着手しております。このため、施工後30年以上を経過しており、経年劣化に伴い修繕や更新を社会資本整備総合交付金等の補助金を活用しながら計画的に実施しており、事故の未然防止や、適切な時期の更新により、経費の節減に努めているところであります。

全体総括

経営見直しについて見ると、企業債残高は、計画的な投資規模や更新工事により減少することが見込まれますが、費用を収益でまかなえておらず、今後人口減少や利用者の節水意識により、さらなる処理場施設の利用率の低下を招き、下水道使用料は減少することが見込まれます。今後においても、汚水処理原価、地方債償還原資の確保のため、料金の見直し等による収益の確保に努めるとともに、汚水処理費の低減を図り健全な企業経営を目指します。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。